

報告 継続教育訓練でのチームプレイの重要性―提案者、批判的随伴者、実践訓練者としてのIGメタルの役割

IGメタル・パナソニック・ヴェルデン・ベルク本部・トランスフォーメーション担当
クラウディア・ドゥンスト



IGメタルはドイツで有力な金属産業の労働組合である。ドイツ最大の労働組合として200万人の労働者を組織し、組合員の労働条件や職業教育などを調整している。2020年にIGメタルが行ったアンケートによると、92%の人が「将来の安定のために、職業資格が重要である」と答えた。この結果に対して、IGメタルは労働組合として支援を決め、社内継続教育の枠組みを作っている。

ドイツの労働組合で継続教育を定着させる要素としては四つあると考える。まずは「政治参画」だ。私たちは政府の政策にも大きく関与し、さまざまなことを共同決定している。雇用者側と共同の公式委員会を通じての参画、連邦政府や州政府の委員会への参加、企業実務の専門家としてのヒアリング、置き、さまざまなサポートを行っている。また、雇用エージェンシーとも密接に連携しイノベータータイプな教育を提案している。

IGメタルは、戦略的継続教育の政策、具体的な枠組み規制の設計、そして事業所内の継続教育の実践にさまざまな形で関与している。ただ、成功しているかと問われると、答えはノーであり、さまざまな課題に直面している現実がある。今後数年の間にそれを解決し、そしてさらに積極的に取り組まなければならない。

労働組合の継続教育政策の課題として「現場での事業所固有の資格取得プロセスの強化」と「従業員の参加とエンパワメント」が挙げられる。資格取得のプロセスを強化するには、まずは事業所レベルでの資格取得プロセスを具体化することが重要だ。また、戦略的レベルで事業所内の参加動員を促すことが必要である。そして企業に必要なものは何か、そして従業員が何を望んでいるか、双方が把握する必要がある。また、「将来を見据えた資格取得のあり方を通じた事業所内でのトランスフォーメーションの積極的な形成」も課題として挙げられる。ドイツではデジタル化、脱炭素化に起因するトランスフォーメーションが加速しており、イノベーションのサイクルは短く、仕事のプロセスはより複雑化している。そんな中でIGメタルは、技術の進歩は社会の進歩にもなら

ノベーションプロジェクトへの参画、また、政府のみならずいろいろな委員会やワーキンググループに公式・非公式な形で関与している。二つ目は「共同決定」である。ドイツでは労働組合が労働協約を使用者側と締結する権利を持っている。例として、バーデン・ヴュルテンベルク州では、IGメタルが使用者団体と労働協約を決定し、賃上げを実現したことが挙げられる。そして三つ目は「事業所協定」だ。ドイツでは事業所組織法により、事業所内の選出された代表者が継続教育というテーマを大きく取り上げ、公正な処遇を支援することが可能になっている。例えば従業員の仕事が変化したり、職業上の知識あるいはスキルが十分でなくなった場合に、事業所委員会はこの共同決定権を行使し、必要な職業訓練のニーズ調査を求めることが可能だ。四つ目は「労働組合の教育活動と助言」。労働組合は継続教育の提供だけでなく、継続教育に対するアドバイスあるいはコンサルティングも行う。IGメタルでは相談ガイダンスやセミナーの他、2年前からは教育メンターも育成している。各事業所に1人IGメタルの代表を配

なければならないという主張を持ち、職場が変わるならばそれは従業員とともにデザインされるべきだと考える。今後は新しい労働プロセスであれ、新製品の導入であれ、会社側の計画をより注視し、資格取得を上手く計画する必要がある。

そして課題の最後としては、「企業での継続教育の原動力としての継続教育指導者の育成」が挙げられる。IGメタルでは、全国で継続教育指導員メンターの育成を実施しており、2022年にはすでに100人以上のメンターを養成した。メンターは水先案内人として支援を行い、他方では、既存の障害に現実的に対処しながら、従業員の参加、従業員との随伴のための体制構築に務めている。

IGメタルでは、資格を持っていない人たちがいるのは途中で諦めてしまった人たちを、どのように教育していくか、二つのプロセスのレベルから、計画的なアプローチをしている。事業所委員会、雇用エージェンシー、使用者と密に連携をとりながら、今後も被雇用者の継続教育をサポートしていく所存である。

Profile クラウディア・ドゥンスト

●大学では社会科学を専攻。政治学修士、公共政策修士、IGメタル・バーデン・ヴュルテンベルク本部の政策担当スタッフ。主な担当分野は、トランスフォーメーション、継続職業教育、労働市場政策。